

「対話」を重視した授業改革

◆ 教育局の学力向上策の概要

- 対話により、全ての子どもが自らの考えと他者の考えの「価値交換」を行い活躍する授業改革を推進
- 学校訪問により学校経営面及び授業実践面の両面から指導助言
- 対話を重視した授業改革やICTを有効に活用した授業改革の好事例をホームページに掲載
- 授業改革のイメージを共有

◆ 学力向上策に関連した特色ある取組

取組のポイントとその具体

■ 1 市内全小・中学校を対象にした合同会議の実施（恵庭市教育委員会）

- ・市内小・中学校を対象に合同会議を実施し、各学校の授業改革の取組状況について実践発表を行い、取組の成果や課題を共有した。
- ・全ての子どもが自らの考えと他者の考えの「価値交換」を行う質の高い対話を位置付けることができるかについて協議した。



【合同会議の様子】

■ 2 「価値交換」を行う場面の設定（千歳市立みどり台小学校）

- ・授業に「価値交換」を行う場面を設定することを年度当初に確認した。
- ・第1学年の国語では、自分の考えを整理した後、互いに考えを伝え合い、課題解決に向けて積極的に取り組んだ。
- ・第4学年の書写では、互いの考えの関連性を見いだした。



【第1学年 国語】



【第4学年 書写】

■ 3 ICTを活用した対話の場面の設定（当別町立とうべつ学園、石狩市立樽川中学校）

- ・とうべつ学園において、自分の考えを端末に入力し、友達と互いに説明し合う場面を設定した。
- ・樽川中学校において、生徒にとって必要感のある対話の場面を設定することで、生徒は課題意識をもって積極的に学習に取り組んだ。



【当別町立とうべつ学園】



【石狩市立樽川中学校】

◆ 成果・課題

- ・授業で対話を意図的に位置付けることにより、子どもが自分の考えを他者に伝えるとともに、自分と他者との考えの相違点や同一点などの関連性を考えることができるようになってきた。
- ・子どもが活躍する子ども主体の授業のイメージを全ての教員がもつことができるよう、質の高い対話の具体について共有する機会を設けるなど、授業改革に向けた取組を継続する必要がある。